

多彩な催し目白押し

章太郎記念館夏祭り開催

「石ノ森章太郎ふるさと記念館夏祭り」(同記念館友の会主催)は8月19日、記念館駐車場などで開かれ、詰めかけた来場者が「石森の夏」を楽しみました。

夏祭りは、地元石森の若者グループ「石若会」のみこし練り歩き、仮面ライダーよさこいバージョンフェスティバル、石森小児童の合唱とプラスバンド演奏など、多彩なプログラムを展開。保育所「森のくまさん」(中田町石森)の園児と職員らが、「雀おどり」を初めて披露しました。森のくまさんばんだ組の伊藤叶音ちゃん(5)は「いっぱい練習した雀おどりを、上手に踊れて楽しかったです」と満足げな表情を浮かべました。



一生命元気に踊る園児らに、会場から大きな拍手が送られていました。

母なる北上川は楽し

旧北上川で川遊びを体験

「北上川川遊び体験」(県東部教育事務所登米地域事務所主催)は7月26日、石巻市桃生町の旧北上川で開かれ、市内の小中学生47人が川遊びを体験しました。

川遊び体験は、同事務所の地域活動プログラム開発事業の一環で、子どもたちの生きる力を育むことが目的。脇谷洗堰(あらいざきこうもん)から植立山河川公園までの約3kmのコースを、全長約40mの巨大いかだに乗り、川下りを楽しみました。途中で川に入り、カヌー、水上自転車や発泡スチロールなどに乗り換えて川を散策。子どもたちは、普段できない川遊びにとっても生き生きとした表情を見せていました。



いかだを止めて、浅瀬で水遊びを楽しむ子どもたち。自然との触れ合いを存分に楽しんだ1日でした。

移住するなら登米市

移住体験ツアーを初開催

「登米市移住体験ツアー」は8月26日、市移住・定住サポートセンターなどで開かれ、参加者は食や自然など本市の魅力を満喫しました。

ツアーは、移住を考えている人などを対象に本市の魅力を体感してもらい、移住・定住を促進する目的で初めて開催。千葉県や仙台市から訪れた参加者は、長沼で散策やはすまつり、移住お試し住宅の見学や夏野菜収穫を体験しました。千葉県我孫子市から参加した小野寺仁さん(40)は「以前から田舎暮らしがしたいと考えていました。登米市は、自然や住環境などが良く、移住の地にふさわしい」と本市への移住に前向きでした。



オジマスカイサービスでミニトマトを収穫し、試食する参加者。高い糖度としっかりした味に「うまい」を連発していました。

仕事は楽しく難しい

東和中生が職場体験学習

東和中学校(吉野幸信校長)2年生の「職業体験学習」は8月2～4の3日間、市内事業所の協力を得て開かれ、生徒らは仕事をする事への理解を深めました。

市役所で職場体験したのは、及川大也さんと千葉碧惟さんの2人。2日は地域コミュニティの夏祭り準備、3日は南東北インターハイボート競技会場でふるさと応援寄附金のPR、4日は総務部総務課で文書配布などの仕事を体験しました。体験後2人は「暑い中での祭りの準備は大変でしたが、感謝をされてやりがいを感じました。仕事をするには、他人への思いやりの気持ちも大切だと学びました」と振り返りました。



県外からの来場者に、ふるさと応援寄附金の説明をする生徒ら。本市の魅力を、分かりやすく伝えるのに苦労していました。

晴天の下、熱戦展開

中田でふるスポ登米大会

「ふるさとスポーツ祭登米地区大会」は8月27日、中田総合体育館などで開かれ、73チーム約560人が参加し、さわやかな汗を流しました。

スポーツ祭は、ソフトボール、ビニールバレーボール、グラウンドゴルフなどの実施種目のほか、ターゲットボードゴルフなどの公開種目を加えた5種目を実施。選手らは、地域間交流を楽しみながら、熱戦を繰り広げました。グラウンドゴルフに出場した西條喜美江さん(72)＝豊里町仲町＝は「競うだけでなく、他の地域の人たちと交流もできて楽しい。来年も出場できるよう頑張りたい」と意気込んでいました。



近年、競技人口が増えているグラウンドゴルフ。打ち損じに思わず「ああっ」という声が出ていました。

不戦の誓い次世代に

祝祭劇場で戦没者追悼式

「登米市戦没者追悼式」は8月18日、登米祝祭劇場で開かれ、遺族など約400人が参列し、恒久平和を誓いました。

黙祷後、熊谷盛廣市長は「私たちは恒久平和を強く求め、二度と悲惨な歴史を繰り返さないよう、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に継承していかなければなりません」と式辞を述べました。来賓の追悼のことはに続いて、参列者全員が献花をし、静かに手を合わせ戦没者3529人の冥福を祈りました。齋藤昇さん(79)＝追町新町＝は「父や戦没者には安らかに眠ってほしい。平和が当たり前の中にも」と手を合わせました。



白菊を備え、手を合わせる参列者ら。恒久の平和への誓いを新たにしました。